



中病だより



自衛隊中央病院
総務課発行
平成28年度
第1号

第十四代病院長着任



第14代病院長
防衛技官 千先 康二

平成二十八年四月一日付で第十四代病院長を拝命いたしました。自衛隊中央病院は、歴代病院長をはじめとする諸先輩の御尽力と、病院職員のたゆみない努力によって、着実に充実発展を重ね、名実共に自衛隊の最終後送病院としての位置付けを確固たるものにしてきました。その伝統と歴史ある自衛隊中央病院に病院長として勤務できることは無上の喜びであるとともに、その責務の重さに身が引き締まる思いであります。

当院は、患者本位の質の高い医療の提供を目指しており、医療の幅と深さにおいて抜きん出ておりますが、これに満足することなく、更なる発展を期す必要があります。それには、「夢とロマン」をもって業務に臨むことが大切です。病院職員が目標や夢を持ち積極的に勤務することで職場環境を更に向上させ、院務運営をよりよいものにしてきたいと思っております。また、病院は高度な医療さ

やっておればいいというわけではありません。衛生は今「救命ドクトリン」を掲げ、真剣に救命率向上を模索しつつ、他職種とも連携して、リアリティを追及しております。その際、ダメージ・コントロール・サージェリー教育訓練は、我々しか成し得ません。衛生の訓練は、野外で実施するのではなく病院で実施するものと、意識改革が必要であると私は思っています。戦傷治療も、日々の救急対応を通して、我々が創り上げてゆかねばなりません。それには、「臨床・教育・研究の一体化」が重要であると思っております。

我々の強みは、国立病院が独法化する中、最後に残った国の病院であり、組織力を背景に、国の一大事に対応できるということ、首都直下地震などの自然災害、NBCやアウトブレイクなどの特殊災害、テロや有事など、「医療における危機管理の万全」を図ることが求められています。

これらの課題を、プロとしてのプライドをもって、一同が団結して、活気に満ち溢れた雰囲気の中で、切磋琢磨してあたって参りたいと思っております。それにより、国民や自衛隊の皆様から信頼を得ることに繋がることを確信しています。

平成二十八年四月吉日
自衛隊中央病院長
防衛技官 千先 康二

副院長（陸）着任



陸 将
森崎 善久
前職務
自衛隊阪神病院長

副院長かねて企画室長を拝命しました森崎陸将です。自衛隊衛生の中核であり、輝かしい伝統のある自衛隊中央病院に勤務できますことは身に余る光栄であるとともに身の引き締まる思いです。一方では、陸幕衛生部医務・保健班長時代には新病院立ち上げ事業の一端を担当しましたので、その病院に勤務できることに大きな喜びを感じています。

現在、自衛隊中央病院には救命ドクトリンの具現化や首都直下地震対応をはじめ多くの課題があります。全職員の皆様のご支援、ご協力を頂いて千先病院長を全力で支え、一つずつ課題を克服し、自衛隊中央病院の充実・発展さらに自衛隊衛生の向上に尽して参る所存です。

新部長等紹介

医療支援官



1等陸佐 佐藤 英徳
大川 職務
前中病 脳神経外科医長

この度、官邸医療支援官を拝命いたしました。官邸医療支援チーム”での経験を活かし増員十名の医官、看護官と連携し職務を全うしたいと考えております。これまでご支援いただきました関係各位に感謝申し上げます。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

診療技術部長



1等陸佐 久保田 孝雄
前職務
中病 第3内科部長

第六代診療技術部長を拝命し、男子の本懐と歓心しています。高い士気と熱い情のある診療技術部を築いていきます。

そして、引き続き自衛隊中央病院で培われた臨床マインドの保持貫徹を求めて参ります。

救急科部長



1等陸佐 竹島 茂人

救急科部長に、臨床医学教育・研究部長を兼ねることになりました。当院は、心肺蘇生教育そして外傷教育では一〇年余りの歴史があります。地域の皆様との連携の中で、どのようにお役に立てるかを考えていきたいと思っております。又、災害派遣を含めた自衛隊の活動に役立つ研究を行います。

衛生資材部長



1等陸佐 伊藤 利光
前職務
中病 臨床医学教育・研究部長

衛生資材部長兼ねて第二内科部長を拝命いたしました。衛生資材部長は医官として初めて努めさせ頂きますが、諸先輩方が築かれました伝統を大事にしながら、患者第一主義を徹底的に貫き、医官にしかできない業務改善ができるよう精進したいと思っております。宜しくお願い致します。

看護部長



1等陸佐 平 尚美
前職務
中病 看護部長

自衛隊札幌病院より転入し看護部長を拝命しました。活気に満ち信頼される病院をめざし、看護師個々の能力をアップさせ、看護部の総力をあげて病院のパワーに反映させるべく努力したいと存じます。

ご指導のほど、よろしくお願い致します。

第3内科部長



1等陸佐 青野 茂昭
前職務
中病 第2内科部長

院内異動により第三内科部長を拝命しました。消化器内科が専門です。今後とも自衛隊医療の中核をなす自衛隊中央病院の発展のため質の高い安全な医療を提供し、皆様から信頼されるように努めていきたいと思っております。

第3外科部長



1等海佐 小川 均
前職務
海幕 衛生官付

この度、第三外科部長を拝命し、海上幕僚幹部首席衛生官付衛生官から着任いたしました。約三年ぶりの中央病院勤務です。患者さんのための外科を心がけて診療にあたりたいと思っております。宜しくお願い致します。

皮膚科部長



2等陸佐 佐藤 弘
堀之 前職務
中病 副皮膚科部長

昨年十二月に現職を拝命いたしました。皮膚は体の内部を映す鏡と言われ、顔・体・手足さらには耳・鼻・口の中まで肉眼で見えるところが診察範囲です。皮膚科は治療効果が見えるので、安全かつ速効性の治療を心がけたいと思います。

新課長等紹介

安全評価官
副医療



2等陸佐 佐藤 雅美
住 前職務
衛生技術教官

衛生学校教官から副医療安全評価官として着任しました。中央病院は四度目の勤務となります。組織横断的な活動と皆さんの協働により、安全かつ適切で質の高い医療が提供できるよう、全力で取り組んでまいります。宜しくお願い致します。

技術管理課長



2等陸佐 佐藤 晃
濱 前職務
中病 循環器医

この度、技術管理課長を命ぜられました。診療技術部が、診療科との連携をより深めながら、病院ニーズに応えて活躍できる体制作り而努力したいと思います。よろしくお願いいたします。

研究課長



1等陸佐 佐藤 二郎
小 前職務
中病 第1外科医長

昨年十二月に研究課長として着任いたしました。研究基盤の整備を推進し、救命ドクトリンに係る研究の充実及び救命率の向上に寄与できるよう努力してまいりますので、よろしくお願い致します。

第1看護課長



2等陸佐 佐藤 真由美
大 前職務
中病 看護部長

自衛隊熊本病院から看護部第一看護課長として着任いたしました。自衛隊中央病院の更なる看護の質の向上に尽力していきたいと思ひます。ご指導よろしくお願い致します。

TQM活動

今年度、病院では患者の皆様のためTQM (Total Quality Management) 活動を行ってきました。これは、病院職員が日々勤務するなかで感じる様々な問題を、それぞれの仲間(サークル)で解決策を案出して実践していくものです。一月二十五日、二十九日にその成果報告会を行いました。診療、看護、検査、薬剤等多くの病院組織から問題点が挙げられ、それに対する一年間の取り組みと成果が報告されました。

今年の最優秀賞は、臨床検査課の『止血隊』(チーム名)でした。この取り組みは、採血後発生する圧迫止血不足による出血を、患者さんの行動変化や努力に頼らず、職員の業務手順を工夫することによって改善できないかという取り組みでした。結果、目標値を大きく上回る成果を得ることができました。



最優秀賞を獲得した臨床検査課『止血隊』

今年度も職員一人ひとりが問題意識を持ちつつ、少しでも診療体制を改善できるように努めてまいりたいと思ひます。患者の皆様が肌で感じられる改善から、まだまだ見えにくい改善まで様々な取り組みがありますが、病院長の『活気に満ち信頼される病院の創造』という統率方針を具現するため、職員全員で取り組んでいます。平成二八年度はTQM活動を更に深化させ、病院利用者のニーズにあった「医療サービス」を提供していきたいと考えています。

高等看護学院
第五六期生卒業式

平成二八年三月四日(金)、三宿駐屯地体育館において中央病院

高等看護学院第五六期生の卒業式が、塚原大臣官房衛生監はじめ内外多数の来賓、この日を心待ちにしていた家族、中央病院職員、三宿駐屯地所在の隊員等約四五〇名が見守る中で挙行されました。堤崎高等看護学院長から、卒業生六六名一人ひとりに卒業証書が、また、成績優秀者に対し病院長賞、学院長賞がそれぞれ授与されました。



堤崎学院長から卒業証書授与

瓜生田病院長(当時)は、式辞で「医療従事者としてのプロ意識を持ち、知識・技能を磨け」「看護陸曹であることに誇りを持って」「自衛隊中央病院高等看護学院最後の卒業生であることを忘れるな」と要望され、新任地に旅立つ卒業生を激励された。また、塚原衛生監は、「常に患者に寄り添い、思いやりの心をもって接する看護師であってほしい」と饒(はなむけ)の言葉を送られた。



祝辞を述べられる塚原衛生監

続いて卒業生を代表し藤高士長が、「三年間の高等看護学院での学びを糧に、それぞれの任地においても常に学び続ける姿勢を持ち、高等看護学院の最後の学生として伝統と誇りを受け継ぎ、成長し続けます」と決意を述べた。



旅立ちの言葉

高等看護学院
閉校記念式典

高等看護学院第五六期生卒業式に引き続き岩田陸上幕僚長ご臨席のもと、閉校記念式典が挙行されました。陸上幕僚長は、祝辞で自衛隊初の女性自衛官を養成する教育課程として発足した高等看護学院の五八年間の歴史にふれ、全国の自衛



岩田陸上幕僚長祝辞



隊病院・部隊等だけでなく災害派遣・国際緊急援助活動等での看護官の活躍を評価されました。更に、高等看護学院の発展的な閉校にあたり陸上自衛隊の看護官に対し、「戦場の天使であれ」「救命に執念を持って」の二点を要望され、命がけで戦う隊員の心に寄り添い必ずや救命するとの強い使命感を保持して、更なる精進性を追求する衛生科職種発展に期待を寄せられました。

高等看護学院の歴史							
28	14	13	平成	56	49	46	34
昭和	33	30	27	24	21	18	15
◆高等看護学院閉校 ◆閉校記念式典・隊旗返還式 ◆最後の学生 第56期生卒業	◆男子学生7名入隊 (女子の限定を廃止)	◆看護学生募集範囲拡大	◆「看護学生精神」を制定	◆戴帽式で「近い言葉」を採用	◆自衛隊中央病院へ名称変更 ◆「高等看護学院」へ名称変更 ◆自衛隊記念式典 看護学生隊を編成	◆「婦人自衛官養成所」に移管 ◆「婦人自衛官養成所」に名所変更	◆衛生学校(三宿)に「看護学生課程」発足 第1期生30名
主要事項							



永きにわたり高等看護学院を見守り続けた隊旗が、堤崎学院長から瓜生田病院長へ返還された。

昭和三十三年から平成二十七年末までの高等看護学院の卒業生は、四一六〇名にのぼり、全国各地で活躍しています。自衛隊における看護師養成は、防衛医科大学校に新設された四年制の看護学科に引き継がれることとなり、平成二十八年三月二十八日その永い歴史に幕を下ろしました。

また、隊旗返還式及び学院長離任式が三月二十二日、自衛隊中央病院で行われました。

自衛隊中央病院 首都直下型地震対処訓練

自衛隊中央病院では、首都直下地震を想定した大規模災害への対処能力の向上を図るため、大量傷病者の受入訓練を平成十九年から実施しています。

自衛隊中央病院では『一人でも多くの人命を救うために何をすべきか』との強い使命感のもと、対処のあり方を検討してまいりました。今回の訓練ではこれまでになかった自衛隊中央病院の新たな役割を検証するため、『オペレーション ネクスステージ』と銘打ち、挑戦的な姿勢で訓練を行いました。



第2回作戦会議

本訓練は東京湾を震源とする震度六強の揺れを観測したという想定で行われ、自治体、近郊医師会、日本赤十字社や災害支援ボランティアなどを含めて約五〇〇人が参加しました。

自衛隊中央病院では、発災後約二時間で半数以上の職員が登庁可能な態勢を常時維持しつつ、免震・耐震構造による施設の残存性、電力共有が途絶えた場合の自家発電能力(コジェネレー

ションシステム)、また、都内で唯一大型ヘリコプターの離着陸が可能な屋上ヘリポートを付設するなど大規模災害への対応に備えています。

訓練では、患者の状態に合わせて治療の優先度を選別するとトリアージをした後、重症、中等症患者への集中的な治療を練成しました。

また、ヘリポートでは傷病者の受入や激震地域外の病院への搬送準備訓練を行いました。これは新たな役割として、災害時の航空拠点(SCU)としての態勢を確立するためのものです。

その他にも、体育館を避難救護所・医療救護所として想定し、被災者への診療を行う訓練も実施し、自衛隊内だけでなく自治体や医療機関をはじめとした、地域との連携も見据えた訓練となりました。



傷病者航空輸送準備

訓練終了後、訓練(研修)に参加していただいた多くの方々から高い評価を得られ、本訓練の目的が達成できたことを確認できました。また、同時に自衛隊中央病院への大きな期待に応えられるよう、練成訓練を重ねる必要性を再確認できました。

三桜会 総会・懇親会

三月十五日、明治記念館において三桜会総会が開催されました。



総会において、新たに渡邊千之氏、大塚八左氏が顧問に、また、森戸卓爾氏が理事にそれぞれ就任されました。

第十三代瓜生田病院長 離任式

三月三十一日、瓜生田病院長の離任式が挙行されました。離任の辞において、病院長就任の一年七ヵ月を振り返り、充実した勤務と病



離任の辞をのべる瓜生田病院長



主催者挨拶
(白濱三桜会会長)

三桜会及び衛朋会の共催により、四月二日桜満開のなか三宿地区で観桜会が行われました。当日は、曇り空でやや肌寒い気候でありましたが、この日を楽しみにされていた三桜会及び衛朋会の多数の会員の皆様が参加されました。

会食は衆議院議員 若宮健嗣氏（防衛副大臣）・越智隆雄氏他、多くの地元選出の都議・区議会議員の皆様の御臨席のもと盛大に開催された。

観桜会



院職員の弛まぬ努力について感謝を述べられました。

また、見送りに際しては、海上自衛隊ご出身にちなみ、病院に所属する海上自衛官により「帽振れ」の伝統的な見送りが行われ、瓜生田病院長のこれまでの功績に感謝するとともに、第二の人生の船出をお見送りしました。



昨年八月より新たな救急医療体制を構築し、「救急車の受入れ」そして時間外の救急患者さんの受入れ」等を進めて参りました。皆様にご支持頂いた結果、四月一日に二次救急医療機関としての指定を受けました。

この地域住民の皆様にご支持頂くよう、地域医療に力を入れて参りますので、宜しくお願い申し上げます。

二次救急医療機関への指定



三桜会、衛朋会の多数の出席



平成二八年四月六日（水）に職業能力開発センター入所式が行われ、六一期生として、陸自八名、海自一名の合計九名を迎えることとなりました。高山センター長以下、職員・入生ともに明るく楽しく頑張ってください。皆様よりしくお願いいたします。

職業能力開発センター入所式



満開の桜が咲く平成二八年四月五日、診療放射線技師養成所は、第五四期生十七名の入所式を部内外の来賓及び関係者多数のご臨席のもと挙行政致しました。

初めは、海上自衛官（一名）の入所もあり、新風を吹かせることと期待するところでした。

放射線技師養成所入所式

保健管理センター便り

【保健相談班】

健康診断のススメ！

新年度はお花見や歓迎会と楽しい催しが目白押しですが、定期健康診断（健診）の季節でもあります。今回は、健診の正しい受け方と結果の活かし方を紹介します。

健診前は摂生が必要？

「健診があるから今日から摂生を始める！」健康診断前によく耳にするお話です。実はこれ、お勧めできません。

健診の目的は、自覚症状のない病気を発見したり、自分の健康状態を知って病気を予防し、生活習慣の改善に活かすことです。一時的に検査値をよくしても意味がありません。むしろ、それにより病気を発見し、悪化するまで気づかなければ未来の自分を苦しめます。健診前は普通通りの生活をし、現時点での状態を正しく把握しましょう。

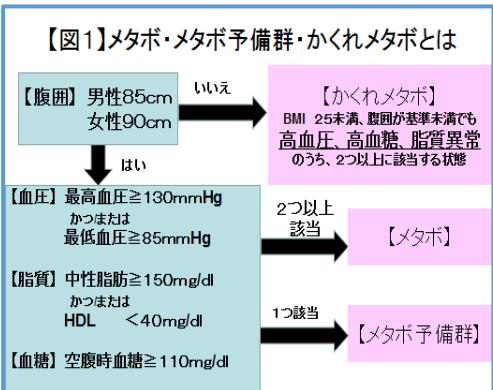
検診結果の活かし方

「異常値＝病気」というわけではありません。基準値以上でも総合判定が「異常なし」ならあまり心配いりません。ただ、そのままでは病気になりやすいという注意信号です。生活習慣を改善しましょう。一方、「要受診」「要精密検査」であれば必ず受診しましょう。その行動が未来の自分への貴重な贈り物となります。

「隠れメタボ」に用心！

「メタボリックシンドローム（メタボ）」は生活習慣病の入口としてすっかり有名ですね。ここで、「腹囲が基準値だから大丈夫！」と思った方、まだ安心はできません。「隠れメタボ」をご存知でしょう。

か？「隠れメタボ」とは、「肥満ではないのに高血圧や高血糖等の異常を複数もつ状態」を指します。（図1参照）



この状態は、健康な人に比べて心臓病を発症するリスクが1.23倍になります。隠れメタボに該当の方はすぐに生活習慣を改善し未来の自分を守りましょう。

比べる相手は「過去の自分」

検診結果を確認するとき、基準値や周りの人と比べるだけになっていませんか？ぜひ、これまでの自分と比べてみましょう。結果がすべて正常値でも、ここ数年で悪化していれば、注意が必要です。生活習慣の改善に取り掛かりましょう！

検診は、「その結果」が肝心！

繰り返しますが、検診の目的は良い結果を残すことではありません。良くない結果は正しく受け止め、生活習慣の改善や受診につなげましょう。その際、困ったことや不安な点などがございましたら、いつでもご相談ください。

皆様の健やかな新年度を応援しています。

（外線代表）〇三三四一〇一五二
専用線 八六一六二三七